



▼「ねぎとこんにやく」下仁田奨学金事業と金融機関と連携した教育制度の充実施策

独自の奨学金事業で 若者のふるさと回帰を

地域への愛着を深め、町で活躍する人材を育成

ねぎとこんにやく
下仁田奨学金

ねぎとこんにやく下仁田奨学金制度とは、子どもたちが成長して下仁田へ帰ってくることを地域全体で応援する新しい奨学金制度です。

具体的には、金融機関からねぎとこんにやく下仁田奨学金を借り、返済した後に、在学中は利息相当額を、卒業後は下仁田町に帰って居住している期間の元金と利息相当額をねぎとこんにやく下仁田奨学金基金から補助する制度です。

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金事業」は、平成29年第42回「地域再生計画」により、内閣府大臣の認定を受けております。

町になる
育てたい
人がいる
育てたい

1 通常の金利より優遇された「ねぎとこんにやく下仁田奨学金ローン」

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金ローン」は、町と「奨学金に関する協定」を締結した金融機関にてお申し込みいただけます。

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金ローン」の毎月の金額は以下のとおりです。

高校生 — 30,000円/毎月

大学生等 — 50,000円/毎月

これから入学される学生、今現在学校に通っている学生のどちらも対象です。

2 ねぎとこんにやく下仁田奨学金基金から元金及び利息相当額を補助する

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金制度」

ねぎとこんにやく下仁田奨学金ローン返済相当額を町が補助します。

在校生(住所要件なし) → 利息相当額を補助

卒業生(住所要件あり) → 元金相当額を補助

※還付利息など対象とならない返済もあります。

※補助金申請は毎年行なって下さい。

3 ふるさと納税や企業版ふるさと納税から基金に寄附する

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金寄附制度」

「ねぎとこんにやく下仁田奨学金」は、これから生まれてくる子どもたちが高校、大学等を卒業後返済、補助する期間は制度として持続することが求められます。

行政だけでなくねぎとこんにやく下仁田奨学金基金を運営した場合には、中長期的には様々なリスクが存在するため、「ねぎとこんにやく下仁田奨学金基金」では、税制上の優遇措置がある「ふるさと納税」及び「企業版ふるさと納税」により、皆様から幅広く寄附を募っています。

SCHOLARSHIP PROGRAM

群馬県下仁田町

地域の名産品が描かれた奨学金パンフレット

寄附活用事業の概要

勉学に励む学生を支援し、 町への定住を促進

下仁田町は、町内に小・中学校が各1校のみという教育環境であり、義務教育修了後は町外または県外へ進学する学生が多いため、保護者の負担は増大しています。そこで、在学期間中は利子を全額補助し、卒業後に町内に定住すると実質全額補助となる奨学ローンを開発し、進学で町外へ流出した人材のUターン就職へつなげる取組を行っています。この制度を通じて、子どもたちのふるさとへの愛着を深めるとともに、将来、下仁田町で活躍する人材となるべく勉学に励んでもらうことで、ふるさと回帰を促進します。

寄附活用事業の成果

奨学金利用者の町内定着が促進

- 3年間で29名の卒業生のうち17名が町内で活躍
- 利用者の町への愛着が深まり、町内で活躍する人材が増加
- 奨学金利用により保護者の負担が低減



町内の金融機関と包括協定を締結し、独自の奨学金制度を構築

地方公共団体 寄附受入れの経緯・工夫

企業版ふるさと納税の制度概要をまとめたマニュアルを作成し、庁内全員に回覧することで、庁内全体に本制度について周知を行いました。企業の選定に当たっては、各部署と連携してリストを作成し、奨学金事業や企業版ふるさと納税に関するパンフレットを持って企業を訪問。結果的には町内出身者など、当町と縁の深い企業から多くの寄附をいただきました。

寄附企業 寄附の経緯・効果

製粉業を営んでおり、農林業従事者の育成が、名産品であるこんにやくの供給確保につながることを期待して寄附を決定しました。社名が下仁田町の広報誌に掲載されたほか、同町のホームページにバナー広告を掲載いただいたことで知名度アップの効果もありました。

事業分野
人材育成
事業期間
2017年4月～2025年3月
総事業費
245,640千円
寄附額
7,400千円(2020年9月末現在)
寄附件数
18件(2020年9月末現在)

寄附企業名

株式会社関越物産、
巴工業株式会社 ほか7社

■(SDGs)関連するゴール

